

## 船舶事故調査報告書

平成21年10月22日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 山本 哲 也  
 委員 根本 美 奈

事故種類	火災
発生日時	平成21年4月29日 10時10分ごろ
発生場所	長崎県五島市 <sup>かほしまあまみ</sup> 杵島天見ヶ浦の南南東方沖 同島所在 <sup>たかのすほな</sup> 鷹ノ巣鼻灯台から真方位207° 1,700m付近 （概位 北緯32° 44.4′ 東経128° 59.9′）
事故調査の経過	平成21年4月30日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 <sup>きょうえいまる</sup> 強栄丸、9.7トン NS2-14755（漁船登録番号）、個人所有 13.82m(Lr)×3.47m×1.29m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数120、昭和60年4月5日
乗組員等に関する情報	船長 男性 72歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士 免許登録日 昭和49年9月19日 免許証交付日 平成20年11月18日 （平成26年4月5日まで有効）
死傷者等	負傷 1人（船長：火傷）
損傷	全損
事故の経過	本船は、平成21年4月29日04時30分ごろ、船長1人が乗り組み、引き縄漁の目的で、五島市福江港を出港した。05時30分ごろ杵島南方の漁場に到着して操業中、10時10分ごろ杵島天見ヶ浦の南南東方2,000m付近で、操舵室に煙が侵入し、主機も停止した。船長は、操舵室を出て機関室上部のハッチカバーを開けたところ、炎が噴き出したため、危険を感じて甲板上に降り、長靴を脱いで救命胴衣の着用を確認し、前部甲板に置いていた発泡スチロールの箱をつかんで、海に飛び込んだ。 船長は、異変を察知して急行した付近の漁船に救助された。 本船は、船長が飛び込んだあと、炎が甲板上を伝播して燃え広がり、駆けつけた巡視艇が消火活動をしたものの、全損となった。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南南東、風力 2、視界 良好 海象：平穏（波なし）、うねり なし
その他の事項	本船は、進水後、24年が経過していた。 船長は、約15年間鮮魚運搬船の機関長をしており、本船の船体や機関の整備を自ら行って、船体や機関の整備に精通していたが、当日出港時、本船に異常は見られなかった。

	<p>燃料タンクは、機関室の左舷側前後に2タンク、右舷側前後に2タンク及び右舷側後方の上部に常用として1タンクが設置され、常用タンクから主機に燃料が供給されるようになっていた。</p> <p>本事故当時、左舷側前後及び右舷側前方の燃料タンクが空で、右舷側後方及び常用タンクの2タンクに合計740ℓのA重油を搭載していた。</p> <p>機関室左舷側後方の燃料タンクの上に、バッテリー2個が、直列に接続した状態で、置かれていた。</p>								
分析	<table border="0"> <tr> <td>乗組員等の関与</td> <td>不明</td> </tr> <tr> <td>船体・機関等の関与</td> <td>不明</td> </tr> <tr> <td>気象・海象の関与</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>判明した事項の解析</td> <td> <p>機関室から出火したものと考えられる。</p> <p>機関室から出火した原因は明らかにすることができなかった。</p> </td> </tr> </table>	乗組員等の関与	不明	船体・機関等の関与	不明	気象・海象の関与	なし	判明した事項の解析	<p>機関室から出火したものと考えられる。</p> <p>機関室から出火した原因は明らかにすることができなかった。</p>
乗組員等の関与	不明								
船体・機関等の関与	不明								
気象・海象の関与	なし								
判明した事項の解析	<p>機関室から出火したものと考えられる。</p> <p>機関室から出火した原因は明らかにすることができなかった。</p>								
原因	<p>本事故は、本船が椀島天見ヶ浦の南南東方沖において操業中、機関室から出火したため、発生したものと考えられる。</p>								